

2017' 第14回加賀百万石ツデーウオークの見どころ!

加賀百万石ツデーウオークは一日目が犀川を中心とした「男川コース」(30・20・10キロ)を、二日目は浅野川を中心とした「女川コース」(24・16・8キロ)を歩きます。コースは、金沢市内に4カ所ある重要伝統的建造物群保存地区(重伝建地区)をすべて通るのをはじめ、国特別名勝の「兼六園」はもちろん、3つの国指定史跡をめぐるなど歴史と文化に育まれた金沢の魅力をたっぷりと味わっていただける設計になっています。コースの主な見どころをご紹介します。

特別名勝



●兼六園(昭和60年3月指定)

金沢を代表する名所の一つ。江戸時代の代表的な回遊林泉式庭園で、水戸の偕楽園、岡山の後楽園とともに「日本3名園」と称されています。延宝4年(1676)、5代加賀藩主前田綱紀が蓮池亭をつくり、その庭を蓮池庭と呼んだのが始まりで、文政年間から嘉永年間(1818~1853)にかけてほぼ完成しました。宏大・幽すい・人力・蒼古・水泉・眺望の六勝を兼ねるといふから、奥州白川藩主松平定信が12代藩主斉広の依頼により揮毫したといわれています。(女川コース)

重要伝統的建造物群保存地区



●ひがし茶屋街(平成13年11月指定)

文政3年(1820)に加賀藩の許可を得て浅野川の東に創設されました。保存地区内の建物140棟のうち約3分の2が伝統的建造物で、その9割が茶屋様式の町屋です。一階正面に華やかな弁柄塗の出格子を付け、江戸後期の茶屋街の雰囲気をよく残しています。最近では7おを超える飲食や物品販売のお店が多くありゆっくりと回るのも楽しいものです。(女川コース)



●主計町(かずえまち)茶屋街(平成20年6月指定)

旧北国街道が浅野川を渡る浅野川大橋のたもとに位置し、河畔に並ぶ桜の木と相まって風情たどよう景観をつくりだしています。この茶屋街は明治末期から昭和前期に最盛期を迎えており、3階を増築した町屋が建ち並んでいます。(女川コース)



●卯辰山麓(うたつさんろく)寺院群(平成23年11月指定)

金沢城下に作られた3つの寺町の一つで金沢城の北東に位置し、起伏ある山麓の地形により独特な景観をつくっています。保存地区内には37カ寺と2つの神社があり、江戸時代の本堂などが多数残っています。(女川コース)



●寺町台寺院群(平成24年12月指定)

金沢城の南西、犀川を越えた高台に位置し、城下では最大の寺院数を数えました。前田家墓所のある野田山に向かう旧野田道と、南に延びる旧鶴来道の2本の道沿いに寺院が集まり、現在、保存地区内には52カ寺が残っています。(男川コース)



●金沢城跡(平成20年6月指定)

天正8年(1580)柴田勝家がこの地にあった金沢御堂を攻略し、佐久間盛政が初めて金沢城主となって城郭整備に着手しました。その後、前田利家が入城し、江戸時代を通じて百万石の大藩である前田家歴代の居城として金沢の中心にそびえました。明治以降は旧陸軍、戦後は金沢大学のキャンパスになりましたが、平成7年(1995)金大移転後は石川県によって城郭や庭園の復元整備が進められています。城内には石川門、三十間長屋、鶴丸倉庫の3つの重要文化財の建物が残り、菱櫓、五十間長屋、橋爪門などが復元され、ますます進化中！(女川コース)



●辰巳用水(平成22年2月指定)

江戸時代初めの寛永年間(1630ごろ)加賀藩が金沢城の水利を改善するために造営しました。犀川上流から取水し金沢城に至る延長約11キロにおよぶ用水です。小松の町人板屋兵四郎が設計したといわれ、隧道や逆サイフォンの原理を応用するなど優れた土木技術の跡を残しています。

日本4大用水の一つで今も現役で生活に密着しています。(男川コース)

その他の見どころ



●金沢駅もてなしドーム

本大会の主会場。平成17年(2005)3月に7年の歳月をかけて完成しました。頭上の大屋根は、金沢を訪れた人々が雨や雪に濡れないようにそっと傘を差したず金沢人の「もてなしの心」「思いやりの心」を表しており、大屋根入り口にある木製の大きな「鼓門(つづみもん)」は藩政時代から盛んだった能や素囃子に用いられる鼓をイメージしています。金沢駅はこのもてなしドームにより平成23年(2011)、アメリカの旅行雑誌「トラベル・レジャー」から日本では唯一「世界で最も美しい駅」の一つに選ばれました。(全コース)



●近江町市場

加賀野菜や加能ガニなど、金沢自慢の食材を買い求めるなら近江町市場が便利です。江戸時代に始まった歴史のある市場で、魚介、青果、精肉店など約170の店が軒を連ね、金沢市民の台所として親しまれています。

寿司屋や海鮮どんぶり、など市場ならではの活気のある飲食店も多く、朝早くから行列の出来る店もあり、金沢観光の人気スポットです。(女川コース)



●長町武家屋敷

金沢の中心街香林坊のすぐ裏手、大野庄用水と鞍月用水が流れる一角に藩の中級藩士たちの屋敷が建ち並んでいました。現在も小路に土塀が続き、市民の生活が営まれています。前田家の重臣だった野村家や足軽屋敷などが公開されています。(男川コース)

●にし茶屋街

金沢に残る三大茶屋街の一つ。文政3年(1820)に加賀藩の公許で「ひがし茶屋街」とともに開設されました。現在でも料亭や芸妓置屋が立ち並び、藩政期の独特の雰囲気を楽しむことができます。(男川コース)



●卯辰山公園

金沢城から見て卯辰(東)の方向にあることから名づけられました。標高は141m。四季を通じて市民の憩いの場となっており、コース途中の花菖蒲園には約100種20万株の花菖蒲や2900株のアジサイも植えられていて目を楽しませてくれます。見晴らし台からは白山山系から日本海までが一望できます。「日本の歴史公園100選」にも選ばれています。(女川コース)